

林業普及及現地情報
2009-26号(通算75号)
平成21年10月15日
千厩農林センター
記述者 高橋 淳

大原山ぶどうの会の活動について

一関市大東町「大原山ぶどうの会」では、このほど収穫を行い、加工用山ぶどうの出荷を終えました。今年の出荷量は、大きな病虫害被害がなかったこともあり、前年を上回る約3.5tとなりました。



新聞取材を受ける関係者

集荷された山ぶどうは、県内で加工され果汁原液ジュース「徳林」として販売されます。



果汁100%ジュース「徳林」720ml

地元産直では、ジュースを原料としたソフトクリームを今年から販売

し、好評を得ております。



新発売
山ぶどうソフト
原料にジュース使用

平成12年に始まった大原地区のヤマブドウ栽培は、生産・加工・販売の一貫体制をめざし平成15年に「大原山ぶどうの会(会員数約80名)」を設立、現在に至っています。

収穫量増加の影には、栽培に取り組む会員の熱意とともに、先輩普及指導員の指導の成果によるものと感じております。

現在、千厩農林センターでは、関係機関と連携した需要者の開拓、成分分析機関との調整等販路拡大に向けた支援を行っております。

今後は、安定した収穫量を確保するため、農業普及指導員と連携しながら、剪定指導、防除暦の作成等、栽培に関する指導を行うこととしております。